

社会教育系複合施設の事例

1. 武蔵野プレイス

図書館機能に加え、「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」等の機能を有する複合施設。市民参加によるアイデアコンペや、施設設計プロポーザルを経て2011年に竣工。

これまでの公共施設の類型を超えて多様な機能を融合させ、人とひとの知的な創造や交流を生み出すことで、地域を活性化させることを目指す。



| | |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 所在地 | 東京都武蔵野市 |
| 開業年 | 2011年 |
| 延床面積 | 19,014㎡（地上4階、地下3階） |
| 事業手法 | 指定管理者制度を導入 |
| 運営主体 | 公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団 |
| 導入機能 | 図書館、カフェ、生涯学習支援（スタディコーナー、ワーキングデスク等）、市民活動支援（会議室等）、青少年活動支援（スタジオ等）等 |



1. 武蔵野プレイス

1・4階は生涯学習支援、3階は市民活動支援、地下2階は青少年活動支援、B1・2階は図書館など、フロアごとに様々な利用形態が想定されている。

特にB2階は放課後・休日の青少年の健全な居場所として機能。自習する、ダンスや音楽の練習をする、工作をするなど、多様な活動が可能である。



■3階 ワークラウンジ（市民活動フロア）
会議室や市民団体（NPOやサークルなど）向けの情報コーナー・ロッカー、打合せスペース等がある。



■1階 パークラウンジ（エントランスフロア）
総合受付、ギャラリー、カフェなどがある。



■2階 コミュニケーションライブラリー（親子や家族で楽しめる図書エリア）
実用書・児童書・絵本など、親子連れを主な対象とする書籍を配架したフロア。子どもに読み聞かせもできる。



■B2階 ティーンズスタジオ（青少年の居場所、創作活動の場）
飲食可能な自習スペース、スタジオ、工作室等がある。自習、ダンス・バンドの練習、軽いスポーツなど、様々な過ごし方が可能。

2. 野々市市図書館

図書館と市民学習センターなどを複合化した事例



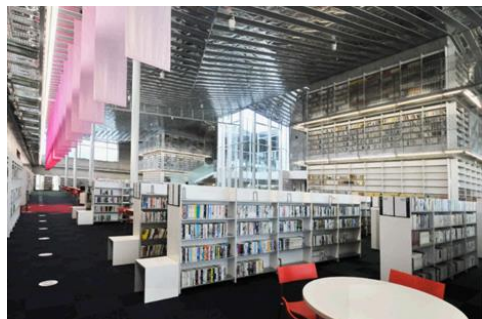
| | |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 開館 | 平成29年11月 |
| 階数 | 地上2階 |
| 敷地面積 | 約18,822㎡ |
| 延床面積 | 約5695.7㎡ - 市立図書館：約3,670㎡ - 市民学習センター：約1,900㎡ |
| 施設内容 | 図書館、市民学習センター |
| 総工費 | 約41.6億円 |
| 維持管理運営 | 野々市中央まちづくり株式会社（指定管理者） - 施設運営担当：図書館流通センター(株) - 施設管理担当：太平ビルサービス(株)・(株)アイビックス北陸 |
| 事業方式 | PFI-BTO（Build Transfer Operate） |

図書館を囲むように市民学習センター等の施設を配置、来館者の交流を促進



出典：市長インタビュー資料、国交省資料、日経BP「新・公民連携最前線」記事2017.12.20

2. 野々市市図書館



図書館内
タワー状
構造物は
閉架書庫



キッチン
スタジオ



音楽
スタジオ

連携取組

閲覧室と市民学習センターの各スタジオとの出入りを活発化させる運用

- 市民学習センターにて催される講座受講中に近くの配架書庫にある関連書籍を閲覧、講座終了後に貸し出せるよう、学習センターの各スタジオ付近に関連した書籍を配置

イベントを複数開催

- 地元出身の世界的アニメーターの展覧会やNHKの人気教養番組に関連した講座を企画するなど、都市部とも引けを取らない内容の事業を行い、市民満足度を向上

開館時間を9時～22時までと長くとって、様々な利用者に対応

2階は学習室や図書館のヤングアダルトスペースなどを配置

ボランティア活躍の場増大、参加促進

- 旧図書館のボランティアは、読み聞かせ中心の活動だったが、開館後は配架・書架整理、本の修理、イベントサポートなど、活動の場が増加

- 年間来場者数の当初目標は30万人だったが、開館1年を待たずに来館者が50万人を超えた
- 旧図書館をほとんど利用しなかったYA世代が、多く来館

3. 都城市中心市街地施設「MALL MALL」都城市図書館

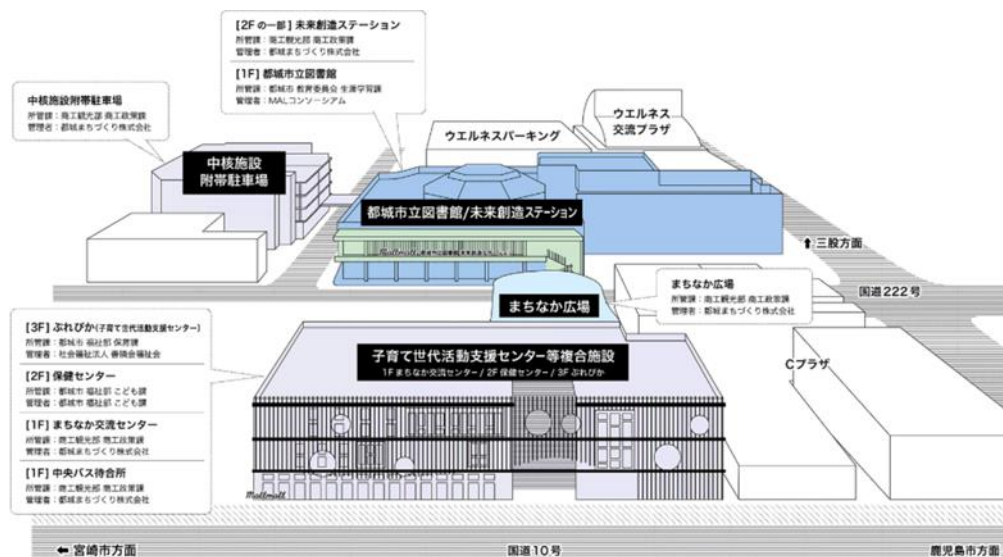
経営破たんした商業施設を図書館等の複合施設に転用

備品調達を民間に委託するなど、発注方式も工夫して空間の質を高める



- 複合施設「MALL MALL」は図書館を含む図中に赤字で記された施設が入る建物3棟と「まちなか広場」で構成
- 隣接する街区には、市が約15年前に整備した「ウエルネス交流プラザ（交流プラザ）」やその駐車場棟にあたる「ウエルネスパーキング」が立地

| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開館時期 | 平成30年 |
| 階数 | RC造（免震）、地上5階、地下1階 |
| 延床面積 | 約10,900㎡ 図書館8,046㎡（蔵書30万冊） |
| 施設内容 | 図書館、子育て活動支援センター、未来創造ステーション・附帯駐車場・まちなか交流センター・保健センター・まちなか広場 |
| 維持管理運営 | 図書館：MALコンソーシアム（構成企業：マナビノタネ（代表）、ココヨマーケティング、ヴィアックス） 子育て活動支援センター：社会福祉法人善隣館福祉会 他施設：都城まちづくり |
| 指定管理料 | 図書館：約2億1900万円 子育て世代活動支援センター：約4900万円 他施設：約2億800万円 |



出典：日経BP「新・公民連携最前線」記事2019.06.18、日本文化情報発信サイト IHCSA Café、施設HP

3. 都城市中心市街地施設「MALL MALL」都城市図書館



連携取組

- ① 屋根付きのイベント広場「まちなか広場」のイベントからの誘客
 - 年間200回のイベント主催を指定管理者に要求
 - 毎月第3日曜日の「mall mall marche (マルマルマルシェ)」では、まちなか広場に30店舗前後が出店し、各回3000人規模の集客。特に3、6、9、12月の年4回は、まちなかの空き店舗や公園などにも会場を拡大。このときは1万人規模の集客
 - 図書館からは読み聞かせのブースを出展
- ② 市民が地域の情報などを発信するプレススタジオ
 - 市民が大事だと思う地域のことを編集・印刷して、オリジナルの冊子などを制作、エントランスすぐのスペース展示台上に展示
- ③ 図書館内の家具・備品のデザインやレイアウトを提案・調達する業務も含めた民間委託
- ④ 2階に10代しか使えない居場所を提供
 - 「ティーンズスタジオ」：宿題を教え合ったり、調べ物をしたりするスペース
 - 「Fashion Lab.」：ファッションブランドが全面協力し、子供が洋服づくりを体験

• 複合施設全体で年間約200万人の来館者、図書館の来館者層で、地元の中高生や乳幼児連れの女性が存在感

4. ゆいの森あらかわ

複合施設内の各施設を一つの部署において運営し、事務スペースの共用化や庶務機能を集約。極力壁を区切らず、つながりをもって配置し、将来的なニーズの変化にも対応。



| | |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 開館時期 | 平成29年 |
| 階数 | RC造（免震）、地上5階、地下1階 |
| 延床面積 | 約10,900㎡ ※区分ごとの面積算定は行っていない |
| 施設内容 | 中央図書館、吉村昭記念文学館、子どものための施設 |
| 維持管理運営 | 庶務・子ども施設：ゆいの森課 26人 図書室：ゆいの森課 44人 文学館：ゆいの森課 6人 |
| 事業方式 | 直営（ゆいの森課の一体管理運営） |

ポイント

- 各機能、諸室は、極力壁で区切らず、つながりをもって配置し、将来的なニーズの変化にも対応
- 施設の顔である1階エントランスから各機能が見えるようにフロアを配置
- 施設の中心から外側、1階から5階に向かい、賑わいの空間から静かな空間へ遷移

4. ゆいの森あらかわ



全ての世代に絵本を楽しんでもらえるよう、館内には「えほん館」と、壁一面の絵本に囲まれた「ゆいの森ホール」を設置
イベントがない時は、可動式でホール前面の壁により一体的な利用が可能に



従来の「静かな図書館」という概念は取り去り、館内に交流スペースや開放的なホールを設けるなど「賑やかな図書館」を目指す

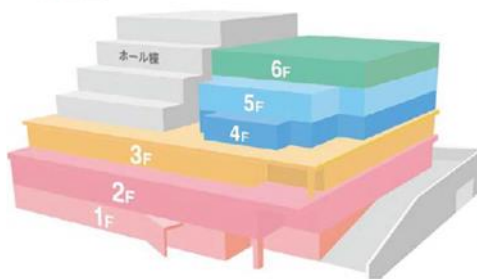
| | |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 複合化による メリット | <p><u>施設維持費、人件費等の経費削減額など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 中央図書館、吉村昭記念文学館、子どものための施設の三つの機能を一つの部署において運営することにより、各機能間の連携を強化し、一体的に業務遂行 ➤ 事務スペースの共用化や庶務機能の集約により、施設の維持管理経費の削減効果 |
| | <p><u>活動のひろがりなど</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 3施設の機能を融合することで、多世代の利用者を呼びこみ、世代間交流に ➤ 体験的な遊びや学びの提供を活発に行い、「賑やかな図書館」へ |
| | <p><u>多様な利用による新たなユーザーの発掘</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ (例) 図書館を目的とした来館者が文学館に立ち寄るなど |
| 課題 | <p><u>全職員が各機能の業務内容を一定程度以上の理解する必要があり、習熟に一定の時間が必要</u></p> |
| | <p><u>各機能ごとの経費の算出が難しい</u></p> |
| | <p><u>連携事業の実施に当たっての役割分担が不明確になりやすい</u></p> |

5. 大和市文化創造拠点シリウス

図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場等の複合体。各施設の融合・連携を図ろうと、運営には指定管理者制度を導入。施設全体を一つの図書館空間とみなし、誰もが居場所を見つけられるように運営を工夫している。



<配置図>



- 6F 生涯学習センター
- 5F 調べて学ぶ図書館
- 4F 健康都市図書館
- 3F 屋内こども広場、こども図書館、スタジオ
- 2F 市民交流ラウンジ、連絡所ほか
- 1F メインホール、サブホール、ギャラリー、カフェほか

| | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 整備時期 | 平成28年 |
| 階数 | 地上6階地下1階鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨） |
| 延床面積 | 22,904㎡（うち図書館6,560㎡） |
| 施設内容 | 図書館（3～5F）、生涯学習センター（2,3,6F） 芸術文化ホール（1～3F）、屋内子ども広場（3F） 駐車場（B1F）、民間（1～2F）、市各施設（各階） |
| 維持管理運営 | 指定管理者やまとみらい（JV） 図書館：（株）図書館流通センター＊代表企業 芸術文化ホール：（株）サントリーパブリシティサービス 生涯学習センター：（株）小学館集英社プロダクション 屋内子ども広場：（株）ボーンランド、（株）明日香 施設維持管理：横浜ビルシステム（株） |
| 事業方式 | 指定管理 |

| 施設 業務 | 芸術文化 ホール | 図書館 | 生涯学習 センター | 子育て 支援施設 | 市民課 連絡所 |
|--------------|-------------|-----|--------------|-------------|------------|
| 貸館・窓口 | 指定管理者 | | | | 行政 |
| 事業の 企画・実施 | 行政 | | | | |
| 施設の 維持・管理 | 管理組合（行政も含む） | | | | |

出典：文部科学省「会教育施設の複合化・集約化 事例」

5. 大和市文化創造拠点シリウス



各階に設けられた多様な座席



2階通路に設けた書架と閲覧席



エントランス周囲の夜景

連携取組

細かなルールで縛らない運営(利用者のマナーに委ねる)

→「読書も学習も、飲み物片手にどこでも」

- 飲み物可、一部食事可
- 1～5階に書架を配置。図書資料を館内ならばどこでも持ち歩き可

催しもの開催場所の適正な再配置

- (例) 図書館で行っていた映画鑑賞会は、学習センターの防音完備の講習室で開催

多様な利用による新たなユーザーの発掘

- (例) ホールの観客が待ち時間に図書館を利用
- (例) 図書館利用者がギャラリーで絵画展を鑑賞
- (例) 子どもを屋内こども広場(保育室)に預けて生涯学習センターの講座に参加

融合事業による一体的な活動(サービス)の提供

- (例) 歌舞伎：ホールで歌舞伎公演、生涯学習センターで歌舞伎を知る講座の開催、図書館で歌舞伎関連図書の企画展示

開館時間を9時～22時までと長くとって、様々な利用者に対応

- 年間来館者数300万人を達成

6. みんなの森 ぎふメディアコスモス

集客力の高い施設を2階に配置し、動線の流れを工夫することによって、施設の相互利用を促進。複合施設の空調管理や施設警備、清掃などを一元化し、維持管理費等の経費を削減。

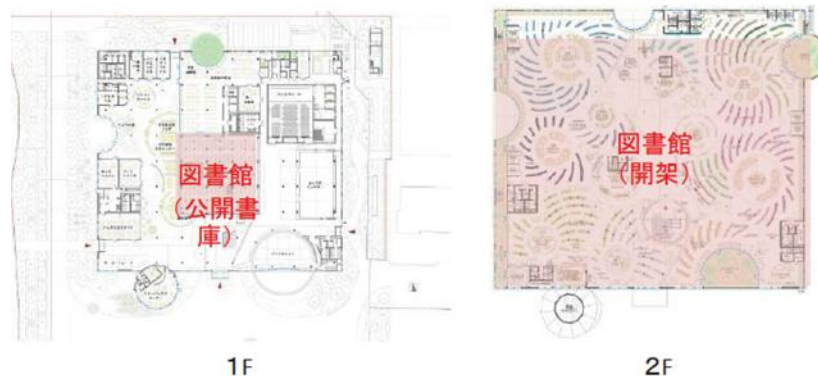


| | |
|----------|---------------------------------------------------------------------|
| 整備時期 | 平成27年2月 |
| 階数 | 地上2階地下1階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造 |
| 延床面積 | 複合施設（延床面積）／ 15,444.23㎡ 岐阜市立中央図書館（約9,200㎡） 市民活動交流センター（約6,200㎡） |
| 旧施設の延床面積 | 旧市立図書館本館（約1,910㎡） NPO・ボランティア協働センター（約80㎡） |
| 施設内容 | 1F：市民活動交流センター、図書館 2F：図書館 |
| 維持管理運営 | 岐阜市立中央図書館：教育委員会 74人 市民活動交流センター：市長部局 33人 |
| 事業方式 | 直営 |

立面図：市民活動交流センターを抜けないと図書館に入れない動線設計



平面図：1Fは図書館を囲むように市民活動交流センターを配置



6. みんなの森 ぎふメディアコスモス



市民活動
団体等によるイベント



座席数
900席の
居心地よい図書館



ホール

| | |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 複合化による メリット | 市民活動交流センターが行う自主事業に合わせて、図書館で関連図書の紹介を行うなど、事業連携により相乗効果 |
| | 複合する施設の空調管理や施設警備、清掃などを一元化することにより、維持管理費や人件費等の経費を削減 |
| 課題 | 市民活動の発表の場として、オープンスペースでの講演会や演奏会等も開催されることから、図書館利用者に対する音響への配慮が必要 |
| | 図書館は教育委員会、市民活動交流センターは市長部局でそれぞれ所管しており、定期的な調整会議を実施しているものの、情報共有や合意形成に時間が必要 |

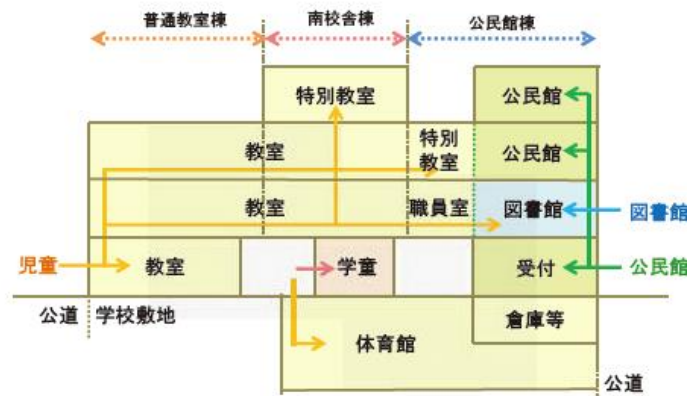
7. 志木市いろは遊学館・いろは遊学図書館・(志木小学校)

志木小学校と、近接公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題解決のため、学社融合施設を整備。施設の相互利用により、児童と地域の学習活動の幅が拡大した。

| | |
|------|----------------------------------------------|
| 学校規模 | 22学級677名（平成27年） |
| 延床面積 | 小学校 10,489㎡ 公民館(遊学館) 1,704㎡ 図書館 1,034㎡ |
| 構造 | SRC造 |
| 階数 | 地上4階、地下2階 |
| 整備時期 | 平成15年 |
| 運営 | 公民館・図書館：教育委員会による直営 |



<立面図>



<配置図>



学校と図書館・公民館で棟や入口は違うものの、明確な区分はほとんどなく、児童と地域が同じ時間に利用している。児童の安全確保のため、ハードとソフトを組み合わせた防犯対策を採っているが、昔から地域コミュニティの基盤が築かれてきたことも複合化の成立条件となっている。

| 施設 | 利用時間(平日) | | | | 所管 | 管理・運営 |
|---------|----------|----|----|----|-------|-------|
| | 8 | 12 | 17 | 22 | | |
| 小学校 | | ←→ | | | 教育委員会 | 教育委員会 |
| 公民館 | | ←→ | ←→ | | 教育委員会 | 教育委員会 |
| 図書館 | | ←→ | ←→ | | 教育委員会 | 教育委員会 |
| 学童保育クラブ | | | ←→ | | 市長部局 | 市長部局 |

出典：文部科学省「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～」

7. 志木市いろは遊学館・いろは遊学図書館・(志木小学校)



いろはふれあい祭り
オープニング



合同防災避難訓練

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 複合化による メリット | <p><u>世代間交流醸成など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ いろはふれあい祭り、いろは大学(高齢者大学)と小学四年生の交流、おもてなし給食 ・いろはふれあい祭りは利用者と児童、PTA、地域住民、地域連携の学生でにぎわいを創生 ➤ 図書委員を含む児童と図書館利用者の交流 |
| | <p><u>相互利用の促進(互いが休館時における)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ いろは遊学館は志木小学校の特別教室を夜間や土日祝日及び夏休みなどに活用 ➤ 志木小学校はいろは遊学館、いろは遊学図書館が休館日にその施設を活用 |
| | <p><u>市との交渉窓口の一元化による教師の本来業務時間の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 市との交渉事(工事、修理、修繕等)を遊学館職員が担当、教師として本来業務に専念可能に |
| 課題 | <p><u>防犯面・児童の安全確保</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防犯訓練、防災訓練を合同開催し対応。常駐警備員の配置、防犯カメラの設置、全職員PHS携帯(費用の増加)、入館証の着用義務等 |
| | <p><u>学社融合事業(特にいろはふれあい祭り)に対する教職員の対応時間が必要</u></p> |
| | <p><u>施設稼働率が高いため、工事・修繕の計画が立てにくい</u></p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 志木市への転入希望者が、志木小学校区について名前を挙げて問い合わせるようになった | |

出典: 文部科学省「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～」

4. ゆいの森あらかわ

複合施設内の各施設を一つの部署において運営し、事務スペースの共用化や庶務機能を集約。極力壁を区切らず、つながりをもって配置し、将来的なニーズの変化にも対応。



| | |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 開館時期 | 平成29年 |
| 階数 | RC造（免震）、地上5階、地下1階 |
| 延床面積 | 約10,900㎡ ※区分ごとの面積算定は行っていない |
| 施設内容 | 中央図書館、吉村昭記念文学館、子どものための施設 |
| 維持管理運営 | 庶務・子ども施設：ゆいの森課 26人 図書室：ゆいの森課 44人 文学館：ゆいの森課 6人 |
| 事業方式 | 直営（ゆいの森課の一体管理運営） |

ポイント

- 各機能、諸室は、**極力壁で区切らず、つながりをもって配置**し、将来的なニーズの変化にも対応
- 施設の顔である1階エントランスから各機能が見えるようにフロアを配置
- 施設の中心から外側、1階から5階に向かい、賑わいの空間から静かな空間へ遷移

4. ゆいの森あらかわ



全ての世代に絵本を楽しんでもらえるよう、館内には「えほん館」と、壁一面の絵本に囲まれた「ゆいの森ホール」を設置
イベントがない時は、可動式でホール前面の壁により一体的な利用が可能に



従来の「静かな図書館」という概念は取り去り、館内に交流スペースや開放的なホールを設けるなど「賑やかな図書館」を目指す

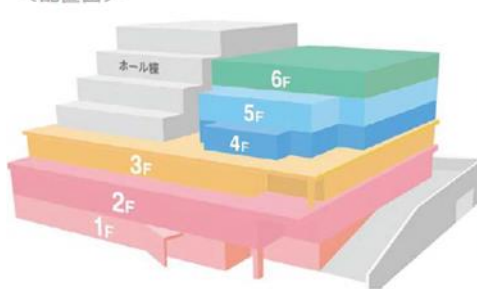
| | |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 複合化による メリット | <p><u>施設維持費、人件費等の経費削減額など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 中央図書館、吉村昭記念文学館、子どものための施設の三つの機能を一つの部署において運営することにより、各機能間の連携を強化し、一体的に業務遂行 ➤ 事務スペースの共用化や庶務機能の集約により、施設の維持管理経費の削減効果 |
| | <p><u>活動のひろがりなど</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 3施設の機能を融合することで、多世代の利用者を呼びこみ、世代間交流に ➤ 体験的な遊びや学びの提供を活発に行い、「賑やかな図書館」へ |
| | <p><u>多様な利用による新たなユーザーの発掘</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ (例) 図書館を目的とした来館者が文学館に立ち寄るなど |
| 課題 | <p><u>全職員が各機能の業務内容を一定程度以上の理解する必要があり、習熟に一定の時間が必要</u></p> |
| | <p><u>各機能ごとの経費の算出が難しい</u></p> |
| | <p><u>連携事業の実施に当たっての役割分担が不明確になりやすい</u></p> |

5. 大和市文化創造拠点シリウス

図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場等の複合体。各施設の融合・連携を図ろうと、運営には指定管理者制度を導入。施設全体を一つの図書館空間とみなし、誰もが居場所を見つけられるように運営を工夫している。



<配置図>



- 6F 生涯学習センター
- 5F 調べて学ぶ図書館
- 4F 健康都市図書館
- 3F 屋内こども広場、こども図書館、スタジオ
- 2F 市民交流ラウンジ、連絡所ほか
- 1F メインホール、サブホール、ギャラリー、カフェほか

| | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 整備時期 | 平成28年 |
| 階数 | 地上6階地下1階鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨） |
| 延床面積 | 22,904㎡（うち図書館6,560㎡） |
| 施設内容 | 図書館（3～5F）、生涯学習センター（2,3,6F） 芸術文化ホール（1～3F）、屋内こども広場（3F） 駐車場（B1F）、民間（1～2F）、市各施設（各階） |
| 維持管理運営 | 指定管理者やまとみらい（JV） 図書館：（株）図書館流通センター＊代表企業 芸術文化ホール：（株）サントリーパブリシティサービス 生涯学習センター：（株）小学館集英社プロダクション 屋内こども広場：（株）ボーンランド、（株）明日香 施設維持管理：横浜ビルシステム（株） |
| 事業方式 | 指定管理 |

| 施設 業務 | 芸術文化 ホール | 図書館 | 生涯学習 センター | 子育て 支援施設 | 市民課 連絡所 |
|--------------|-------------|-----|--------------|-------------|------------|
| 貸館・窓口 | 指定管理者 | | | | 行政 |
| 事業の 企画・実施 | 行政 | | | | |
| 施設の 維持・管理 | 管理組合（行政も含む） | | | | |

出典：文部科学省「会教育施設の複合化・集約化 事例」

5. 大和市文化創造拠点シリウス



各階に設けられた多様な座席



2階通路に設けた書架と閲覧席



エントランス周囲の夜景

連携取組

細かなルールで縛らない運営(利用者のマナーに委ねる)

→「読書も学習も、飲み物片手にどこでも」

- 飲み物可、一部食事可
- 1～5階に書架を配置。図書資料を館内ならばどこでも持ち歩き可

催しもの開催場所の適正な再配置

- (例) 図書館で行っていた映画鑑賞会は、学習センターの防音完備の講習室で開催

多様な利用による新たなユーザーの発掘

- (例) ホールの観客が待ち時間に図書館を利用
- (例) 図書館利用者がギャラリーで絵画展を鑑賞
- (例) 子どもを屋内こども広場(保育室)に預けて生涯学習センターの講座に参加

融合事業による一体的な活動(サービス)の提供

- (例) 歌舞伎：ホールで歌舞伎公演、生涯学習センターで歌舞伎を知る講座の開催、図書館で歌舞伎関連図書の企画展示

開館時間を9時～22時までと長くとって、様々な利用者に対応

- 年間来館者数300万人を達成

6. みんなの森 ぎふメディアコスモス

集客力の高い施設を2階に配置し、動線の流れを工夫することによって、施設の相互利用を促進。複合施設の空調管理や施設警備、清掃などを一元化し、維持管理費等の経費を削減。

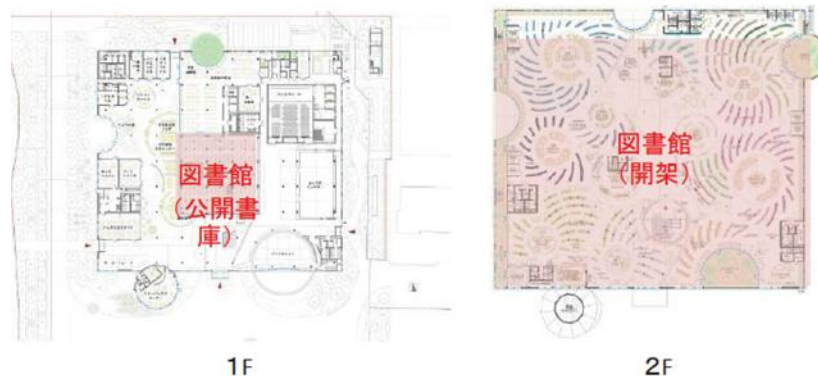


| | |
|----------|---------------------------------------------------------------------|
| 整備時期 | 平成27年2月 |
| 階数 | 地上2階地下1階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造 |
| 延床面積 | 複合施設（延床面積）／ 15,444.23㎡ 岐阜市立中央図書館（約9,200㎡） 市民活動交流センター（約6,200㎡） |
| 旧施設の延床面積 | 旧市立図書館本館（約1,910㎡） NPO・ボランティア協働センター（約80㎡） |
| 施設内容 | 1F：市民活動交流センター、図書館 2F：図書館 |
| 維持管理運営 | 岐阜市立中央図書館：教育委員会 74人 市民活動交流センター：市長部局 33人 |
| 事業方式 | 直営 |

立面図：市民活動交流センターを抜けないと図書館に入れない動線設計



平面図：1Fは図書館を囲むように市民活動交流センターを配置



6. みんなの森 ぎふメディアコスモス



市民活動
団体等によるイベント



座席数
900席の
居心地よい図書館



ホール

| | |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 複合化による メリット | 市民活動交流センターが行う自主事業に合わせて、図書館で関連図書の紹介を行うなど、事業連携により相乗効果 |
| | 複合する施設の空調管理や施設警備、清掃などを一元化することにより、維持管理費や人件費等の経費を削減 |
| 課題 | 市民活動の発表の場として、オープンスペースでの講演会や演奏会等も開催されることから、図書館利用者に対する音響への配慮が必要 |
| | 図書館は教育委員会、市民活動交流センターは市長部局でそれぞれ所管しており、定期的な調整会議を実施しているものの、情報共有や合意形成に時間が必要 |

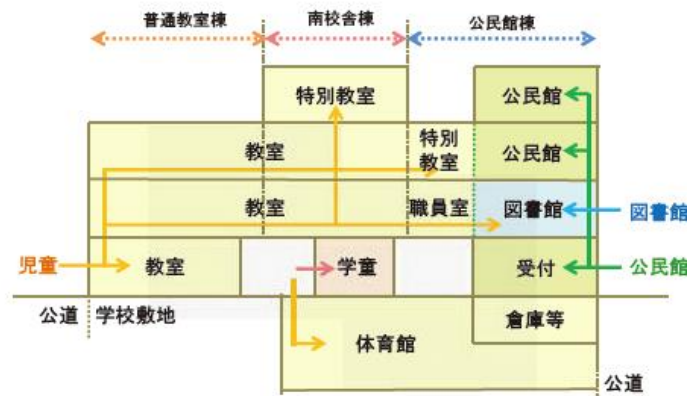
7. 志木市いろは遊学館・いろは遊学図書館・(志木小学校)

志木小学校と、近接公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題解決のため、学社融合施設を整備。施設の相互利用により、児童と地域の学習活動の幅が拡大した。

| | |
|------|----------------------------------------------|
| 学校規模 | 22学級677名（平成27年） |
| 延床面積 | 小学校 10,489㎡ 公民館(遊学館) 1,704㎡ 図書館 1,034㎡ |
| 構造 | SRC造 |
| 階数 | 地上4階、地下2階 |
| 整備時期 | 平成15年 |
| 運営 | 公民館・図書館：教育委員会による直営 |



<立面図>



<配置図>



学校と図書館・公民館で棟や入口は違うものの、明確な区分はほとんどなく、児童と地域が同じ時間に利用している。児童の安全確保のため、ハードとソフトを組み合わせた防犯対策を採っているが、昔から地域コミュニティの基盤が築かれてきたことも複合化の成立条件となっている。

| 施設 | 利用時間(平日) | | | | 所管 | 管理・運営 |
|---------|----------|----|----|----|-------|-------|
| | 8 | 12 | 17 | 22 | | |
| 小学校 | | ←→ | | | 教育委員会 | 教育委員会 |
| 公民館 | | ←→ | | | 教育委員会 | 教育委員会 |
| 図書館 | | ←→ | | | 教育委員会 | 教育委員会 |
| 学童保育クラブ | | | ←→ | | 市長部局 | 市長部局 |

出典：文部科学省「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～」

7. 志木市いろは遊学館・いろは遊学図書館・(志木小学校)



いろはふれあい祭り
オープニング



合同防災避難訓練

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 複合化による メリット | <p><u>世代間交流醸成など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ いろはふれあい祭り、いろは大学(高齢者大学)と小学四年生の交流、おもてなし給食 ・いろはふれあい祭りは利用者と児童、PTA、地域住民、地域連携の学生でにぎわいを創生 ➤ 図書委員を含む児童と図書館利用者の交流 |
| | <p><u>相互利用の促進(互いが休館時における)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ いろは遊学館は志木小学校の特別教室を夜間や土日祝日及び夏休みなどに活用 ➤ 志木小学校はいろは遊学館、いろは遊学図書館が休館日にその施設を活用 |
| | <p><u>市との交渉窓口の一元化による教師の本来業務時間の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 市との交渉事(工事、修理、修繕等)を遊学館職員が担当、教師として本来業務に専念可能に |
| 課題 | <p><u>防犯面・児童の安全確保</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 防犯訓練、防災訓練を合同開催し対応。常駐警備員の配置、防犯カメラの設置、全職員PHS携帯(費用の増加)、入館証の着用義務等 |
| | <p><u>学社融合事業(特にいろはふれあい祭り)に対する教職員の対応時間が必要</u></p> |
| | <p><u>施設稼働率が高いため、工事・修繕の計画が立てにくい</u></p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 志木市への転入希望者が、志木小学校区について名前を挙げて問い合わせるようになった | |

出典: 文部科学省「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～」